

令和6年度 年間学習指導計画案

科目	生物基礎	単位数	2単位	学年・学科・コース	3学年・普通科・普通コース（文系）
使用教科書	高等学校生物基礎（第一学習社）		副教材等	進研 WINSTEP 生物基礎（ラーズ）	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法	
			a	b	c			
4	第1編 生物の特徴 第1章 生物の共通性 1. 生物の共通性 2. 生物とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動には ATP が関わっていることを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解している。 生物にみられる特徴について説明できる。 代謝における ATP の役割について、資料からわかることを積極的に説明しようとしている。 		
				○				<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子と DNA と染色体の関係について理解している。 塩基の相補性に着目して、DNA の複製のしくみを説明できる。 遺伝暗号表をもとに、例示された mRNA が指定するアミノ酸配列を正確に読み取るようとしている。
					○			
5	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造 2. 遺伝情報とタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子と DNA と染色体の関係について理解する。 細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。 DNA の塩基配列と、その配列で決定されるアミノ酸配列から、3つの塩基の並び（コドン）が1つのアミノ酸に対応していることを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子と DNA と染色体の関係について理解している。 塩基の相補性に着目して、DNA の複製のしくみを説明できる。 遺伝暗号表をもとに、例示された mRNA が指定するアミノ酸配列を正確に読み取るようとしている。 	定期考査 授業態度 小テスト 課題	
				○				<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の調節における、内分泌系と自律神経系の働きの違いを説明できる。 運動前後の心拍数の変化を測定する実験に積極的に取り組み、体内における情報伝達のしくみを理解しようとする。
					○			
6	第2編 ヒトのからだの調節 第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 体液の種類と関係、血球の種類について理解している。 体内環境の調節における、内分泌系と自律神経系の働きの違いを説明できる。 運動前後の心拍数の変化を測定する実験に積極的に取り組み、体内における情報伝達のしくみを理解しようとする。 		
				○				<ul style="list-style-type: none"> 免疫には、さまざまな免疫細胞が関与することを理解している。 自然免疫と獲得免疫では抗原認識が違い、自然免疫が獲得免疫を誘導することによって、免疫の反応が基本的に病原体にのみ起こることを説明できる。 二次応答によって同じ感染症にかかりにくいことを資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。
					○			
7	2. 免疫	<ul style="list-style-type: none"> 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。 獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 免疫には、さまざまな免疫細胞が関与することを理解している。 自然免疫と獲得免疫では抗原認識が違い、自然免疫が獲得免疫を誘導することによって、免疫の反応が基本的に病原体にのみ起こることを説明できる。 二次応答によって同じ感染症にかかりにくいことを資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。 	定期考査 授業態度 小テスト 課題	
				○				<ul style="list-style-type: none"> 免疫には、さまざまな免疫細胞が関与することを理解している。 自然免疫と獲得免疫では抗原認識が違い、自然免疫が獲得免疫を誘導することによって、免疫の反応が基本的に病原体にのみ起こることを説明できる。 二次応答によって同じ感染症にかかりにくいことを資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。
					○			

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 2. バイオーム	<ul style="list-style-type: none"> 植生ごとに環境を比較する観察から、植生が異なると光や土壌環境も異なり、植生と環境は密接な関係にあることに気づく。 バイオームの概念を理解し、陸上にはその地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 植生、相観、優占種について理解している。 世界でみられる草原や荒原が森林へ遷移することなく長期間維持されている要因として、その地域の年降水量や年平均気温などが関係していることを、読み取ることができる。 バイオームの分布を決める要因を資料から積極的に読み取ろうとしている。 	
9	第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 2. 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> 生態系の構成について理解する。 生物は、食物連鎖（食物網）によってつながっていることを理解する。 人間は、生態系からさまざまな恩恵を受けており、それを受け続けるためには生態系を保全する必要があることを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 生態系において、生物が食物網によってつながっていることを理解している。 各生態系で、異なる種の多様性がみられる理由を説明できる。 上位の栄養段階の生物が生態系で果たす役割を、資料から積極的に読み取ろうとしている。 	
10 11 12 1	共通テスト対策演習	<ul style="list-style-type: none"> 既習の学習内容と関連付けて共通テストの対策を行い、理解を深める。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 演習を通して、生物の既習事項を確認し、理解している。 演習を通して、生物の既習事項について説明することができる。 演習を通して、生物の既習事項について自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 	授業態度 小テスト 課題